

令和6年度 神奈川県認知症介護基礎研修実施要領

1 研修の目的

認知症介護に携わる者が、その業務を遂行する上で必要となる基礎的な知識・技術とこれを実践する際の考え方を身につけ、チームアプローチに参画する一員として、基本的なサービス提供を行うことができるようにすることを目的とする。

2 実施方法

(1) eラーニングによる研修

知事が指定した社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター（以下「センター」と言う。）が作成し、オンライン配信している「eラーニング教材」の視聴をもって研修とする。

(2) 集合形式による研修

「神奈川県認知症介護基礎研修事業指定要綱」に基づき知事が指定した法人が実施することとする。なお、標準的な研修カリキュラム（別表）により研修を実施することとし、講師と受講者が、同時双方向の意思疎通等ができる方法により、実施することとする。また、講師は県が委嘱した神奈川県認知症介護指導者とする。

実施方法は、知事が指定した法人が周知することとする。

3 受講対象者と受講条件

次の要件をすべて満たし、研修修了までの間、遵守することを受講条件とする。

- (1) 神奈川県内の介護保険施設・事業所等（以下「事業所」と言う。）に従事している方
ただし、政令市（横浜市、川崎市、相模原市）が所管する事業所については、原則、各市の定める申込方法に基づくものとする。
- (2) 全課程において、意欲的に受講することができる方
- (3) 事業所として、責任を持って受講させることができる方

4 受講方法（概要）

(1) eラーニングによる研修

各事業所責任者が直接センターへ申込（事業者コード発行）を行った上、オンラインにより受講する。

各自端末による受講（センターへ直接申込）

所属事業所又は受講者個人が準備したインターネット接続可能なPC等機器により、センターが配信する研修教材（eラーニング教材）を受講する。

【実施機関】

社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター

【受講料】

1人：3,000円

【受講の流れ】

- ① 事業所責任者が、センターの専用サイト（<https://dcnet.marutto.biz/e-learning/>）より事業所情報の入力（事業所登録）を行い、「事業所コード」を取得する。
- ② 同専用サイトのトップページより、受講希望者情報の登録など「受講申込」を行う。
- ③ 登録後、センターの指定する方法にて、期日までに受講料（3,000円）を支払う。
- ④ 「受講許可のお知らせメール」を受信した後、各自準備した端末より150分程度の講義動画を視聴する。

★ 手順の詳細は、別添「操作マニュアル（受講者用）」を参照して下さい。

【修了認定について】

e ラーニング教材では、全課程受講後の効果測定にて基準を満たすと、自動的に修了認定画面が表示されるため、受講生各自が、これを印刷・保存し証明とする。

【注意事項について】

- ① 受講申込書に不実や虚偽の記載があった場合は、受講決定及び修了証書を取り消すとともに、同事業所は、同年度中に開催される本研修の受講は出来ないものとする。
- ② 受講決定後は、同事業所内であっても受講者の変更は原則出来ないものとする。
- ③ 本研修受講中に、研修の実施機関が「受講者について受講を継続することが適切でない」と判断した方については、退席いただくと共に、以降の研修を受講することは出来ないものとする。なお、その際の受講料の返金は行わない。

【個人情報の取り扱いについて】

本研修の申込書等に記載された事項は、個人情報保護の規定により適正な管理を行い、本研修事業以外に使用しない。

上記受講方法等に関する質問は、研修実施機関へお問合せ下さい。

★受講方法

【会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター（システム運営事務局）】

〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ケ丘 6-149-1

E-MAIL : e-sendai@dcnet.gr.jp

【株式会社ワールドプランニング（システム運用者）】

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル 2F

※ お問い合わせについてはHP内「問い合わせフォーム」の利用をお願いいたします。

（２）集合形式による研修

知事が指定する法人が周知することとする。

問合せ先

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部
高齢福祉課高齢福祉グループ 油井
電 話：045 - 210 - 1111 内線 4847
ファクシミリ：045 - 210 - 8874

別表

科 目 名	認知症の人の理解と対応の基本	研修形態と講義時間： 講義（180 分）
目 的	認知症の人を取り巻く現状、症状に関する基礎的な知識を学び、認知症ケアの基礎的な技術に関する知識を身につける。	
到達目標	1. 認知症の人を取り巻く現状について把握し、概要を説明できる。 2. 認知症の人を理解するために必要な基礎的知識を身に付け、症状や影響要因等について具体的な例示ができる。 3. 具体的なケアを提供する時の判断基準となる考え方を理解し、説明や例示ができる。 4. 認知症ケアの基礎的技術に関する知識を身に付け、要点を列挙し具体的な例示ができる。	
概 要	認知症ケアの実践を行うために必要な基礎的事項について、講義によって解説する。また講義を受動的に聴講するだけでなく、学習状況を確認し理解を深めるために、講義は次のように進行する。すなわち、「到達目標」に挙げた1～4のそれぞれについて、講義を受講した後、講義内容に関する討論や確認テスト等を実施し、さらにそれらへの解説を行う。またこれらによって、演習科目「認知症ケアの実践上の留意点」につなげ、研修全体としての理解度を高める。 ※本科目については、通信形式でも実施できることとする。	

内 容		備 考
1. 認知症の人を取り巻く現状	認知症の有病率、疾患別割合などの現状と、認知症施策の動向の主要な事項を理解する。 1) 認知症の現状と原因疾患別の発症割合（含：若年性認知症） 2) 認知症施策の概要（含：地域包括ケア）	（全体を通して） ・討論や確認テスト及び解説等の方法で、内容ごとに学習事項を振り返り、要点整理を行う。 ・定義や症状、理論の分類学的知識に留まらず、具体的な様態や方法、生活や心理への影響等が理解できるようにする。
2. 認知症の人を理解するために必要な基礎的知識	認知症の症状と生活や心理への影響、症状出現に影響する要因について学ぶ。 1) 認知症の定義と原因疾患別の特徴、主な中核症状の特徴と行動・心理症状（B P S D）に関する基礎的知識 2) 中核症状の生活への影響と心理 3) 中核症状、環境要因等の影響要因、本人の心理との関係による、行動・心理症状（B P S D）のとりえ方と出現原因 4) 認知症の人にとっての環境の重要性 5) 健康管理や廃用症候群の予防の重要性	
3. 具体的なケアを提供する時の判断基準となる考え方	ケアの基礎となる考え方を理解し、偏見の解消や家族支援の基礎となる知識を得る。 1) 認知症ケアにおいて基礎となる理念や考え方（パーソン・センタード・ケア等） 2) 本人の視点からみた尊厳の保持の重要性 3) 認知症の人への偏見や誤解とその解消 4) 家族介護者の理解	
4. 認知症ケアの基礎的技術に関する知識	チームケアの観点を含めた基礎的な認知症ケアの方法を理解する。 1) 認知症の治療の概要 2) 認知症の症状への対応 3) 不適切な（行うべきでない）関わり方 4) チームケアの基本と情報共有	

科 目 名	認知症ケアの実践上の留意点	研修形態と講義時間： 演習（180分）
目 的	認知症ケアの実践を行うために必要な方法について、事例演習を通じて、背景や具体的な根拠を把握の上、ケアやコミュニケーションの内容を検討する。自事業所の状況や自身のこれまでのケアを振り返り、認知症の人への対応方法を身につける。	
到達目標	1. 認知症の人との基本的なコミュニケーションの方法を理解し、要点を説明できる。 2. 不適切なケアについて理解し、その回避方法について具体案を示すことができる。 3. 病態・症状等を理解したケアの選択の根拠を自身の考えとして示すことができる。 4. 行動・心理症状（BPSD）を理解したケアの選択と工夫の基礎的方法を理解することができる。 5. 自事業所の状況や自身のこれまでのケアの振り返りを研修内容に照らして行うことができる。	
概 要	認知症ケアの実践を行うために必要となる基本的な実践方法について、事例演習を通じて体験的に学ぶ。演習は具体的な事例を題材に、「到達目標」に挙げた1・2、及び3・4の別に展開し、背景や具体的な根拠、ケアやコミュニケーションの内容を検討し、結果を共有した後、講義科目「認知症の人の理解と対応の基本」の振り返りを含めた解説を行う。さらに、演習終了後、演習での学びを自事業所の状況や自身のこれまでのケアに照らして振り返り、今後の実践に活かす。	

内 容		備 考
1. 認知症の人との基本的なコミュニケーションの方法	1・2の内容を合わせて、認知症の人とのコミュニケーション場面を題材とした事例演習を行う。以下の内容を検討し、発表や解説を行うことにより、認知症の人への対応方法の基本について理解を深める。	（全体を通して） ・グループワークを中心とする。 ・各演習の解説及び5では、講義科目「認知症の人の理解と対応の基本」の内容を適宜振り返る。
2. 不適切なケアの理解と回避方法 （1・2は一体的に行う）	1) 認知症の人とのコミュニケーションのあり方 2) 不適切なケアの気づきと改善方法	
3. 病態・症状等を理解したケアの選択	行動・心理症状（BPSD）を示す人に対して、根拠を伴った対応方法を検討する事例演習を行う。以下の内容を検討し、発表や解説を行うことにより、3・4の内容について理解を深める。また演習参加によりチームアプローチのプロセスを体験する。	（内容ごと） ・1及び2は、初任者が困難さを感じやすく、認知症ケアにおいて頻出する中核症状の影響が比較的明確な場面を用いる。 ・3及び4は、比較的典型的な（背景要因が具体的に指摘可能な）行動・心理症状（BPSD）の出現場面を用いる。
4. 行動・心理症状（BPSD）を理解したケアの選択と工夫 （3・4は一体的に行う）	1) ケアの内容の根拠となる病態・症状等 2) 症状出現に影響する本人の心理や他の要因 3) 行動の背景を理解したケアの工夫	
5. 自事業所の状況や自身のこれまでのケアの振り返り	事例演習を踏まえて、自事業所の状況や自身のこれまでのケアを振り返る。グループワークを通じて共有し、今後の認知症ケアの実践に活かす。	